

VI これからの取組

これからの取組

則久雅司（環境省環境再生・資源循環局参事官
/福島再生・未来志向プロジェクトチーム長）

CANDLE JUNE

則久雅司氏

環境省は、～一緒に考える「福島、その先の環境へ。」～をテーマとして、色々な企画を進めていきたいと思っております。

一つ目は中学生・高校生・大学生達を対象として、未来の福島に向けての作文のコンクールです。非常に前向きで未来があるものについては、3月にイベントを組みまして、その時に発表の機会を提供し、皆さんからどんどん情報発信して頂きたいと考えております。二つ目はSDGsということで、IGESの藤野先生とソトコトの編集長の指出さんに来ていただき、福島で2回ほど勉強会を開催いたします。三つ目は県と一緒に企業の方を対象とした省エネ、省資源のシンポジウムを予定しております。

こうした形で学生・市民・企業といったいろんな方々のつながりを増やしていく未来志向プロジェクト、あるいは県との協定に基づく取り組みを進めて行こうと思っています。そういったものを一つに集約していく形で、12月13日にJヴィレッジでLove For Nipponさんと連携してシンポジウムを開催できないか相談している最中でございます。

CANDLE JUNE 氏

私はいつか世界から福島ありがとうっていう声が届く日まで活動してきたって思いを持って活動しています。環境問題というよりは、福島で生きているこの10年と、ここから先を見てるよって所と一緒にやらせてもらえたらと思います。これから福島

でどうアクションしていくかということが、今日からスタートできたらいいと思っています。

復興というと、災害前のまちのイメージを持つ方達が多いのですが、過去に戻るとは出来ないと考えた時に、そこから一步一步毎日毎日を積み重ねていった結果を、その命日でもあるその災害が起きた日に発表するという、そしてまた多くの支援者がいた方達が帰って来れて喜びあえる日を作らなければならないのです。それをずっと続けて、みんなが再会できる場所、喜びあえる場所を絶対作りたい、それがJヴィレッジのイベントであります。当時、原発復興スタートの除染作業の本拠地であったJヴィレッジが、日本の村づくり拠点としての発信、いわゆるその復興の拠点になればと思ひ、Jヴィレッジを中心として相双地区、浜通り、しいては県七方部すべてで、3月11日をなるべく多方面で、多地域で、多日数で開催ができたならという、始まりの一步だと思っています。

